

インカレ・ディベート報告

第8期生 黒沢 祐介

◆インカレ・ディベートとは...？

小野ゼミは兄弟ゼミである中央大学久保ゼミと、2009年からディベートを行っています。2010年からは、久保ゼミの元兄弟ゼミで小野ゼミとは義理の兄弟ゼミにあたる関西大学岩本ゼミも参加し、合計3ゼミとなりました。小野ゼミは、1つのマーケティング問題を2つの立場から討論し、当該問題についての深い洞察を得るためにディベートを行っています。文化の異なる他ゼミと論を交えることで、小野ゼミにはない違う角度からの洞察を得ることができます。



本番直前で緊張気味の8期生

◆活動後期

6月12日、インカレ・ディベート本番が行われたこの日に至るまでには、壮絶なドラマがあった。

小野ゼミに入会してからまだ2カ月で、初々しさの残る8期生達は、5月の中旬からディベートの立論を組み立て始めた。テーマは、「完成品メーカーは部品メーカーのマーケティングを支援すべきか否か」「スポーツ・スポンサーシップは、スポンサー企業のプロモーションとして有効か否か」の2つである。ディベートの立論の組み立て方など全く分かっていなかった8期生であったが、「やればできる!!」という、経験的妥当性も根拠もない謎の自信を持っていた。

しかし、5月中旬に行われた7期生との模擬ディベートでその自信は脆くも崩れ去った。まさに、完敗、フルボッコ状態。7期生に「大丈夫?」と本気で心配をさせてしまう程であった。それから、1週間かけて立てた論を全て一から考え始めた。毎日朝から晩ま



立論する著者



鈴木は渉外でも活躍しました



大学院生の窪田さんに講評していただきました

でグループ学習室にこもり、全員で立論を考えた。それでも納得のいく立論は完成できず、ディベート本番 1 週間前に行った模擬プレゼンでもまたもやフルボッコ。立論が完成しない、さらに小野ゼミが対外ディベートで無敗であるというプレッシャーが 8 期生にのしかかる。それからは、「朝から晩まで」ではなく「朝から朝まで」必死になって考えた。ファミレスのおばさんには何度も嫌な顔をされた。

そして当日。直前まで発表用資料に修正を加え、ディベート開始 10 分前から印刷を始め、猛ダッ

シュで教室に駆け込んだ。そして迎えたディベート本番。結果は、オーディエンスにも助けられて辛勝。このときは本当にうれしかった。ボロボロになって、先輩・先生に助けられて、もう自分たちの力なんてほとんど関係ないようなものだったが、それでも必死に頑張って、結果が出せたことは本当にうれしかった。こうしてインカレ・ディベートは幕を閉じた。



ディベート後に撮影された 3 ゼミ合同の集合写真（小野ゼミ生は左側一帯）